

特集

筋炎と壊死性筋症

企画 本誌編集委員会

Bohan と Peter の診断基準から半世紀を経て、炎症性筋疾患の疾患概念、分類は大きく変貌を遂げ、自己抗体または筋病理を軸とした分類も着々と進んでいる。また、新たな治験も続々と進行中であり、各症候・検査所見の点数化という新たな分類基準の提唱もなされた。このようにめまぐるしく変化した炎症性筋疾患の状況を適切に把握するため、特集として疾患概念の整理、新しい分類基準の解説、最新治療を概観する。